

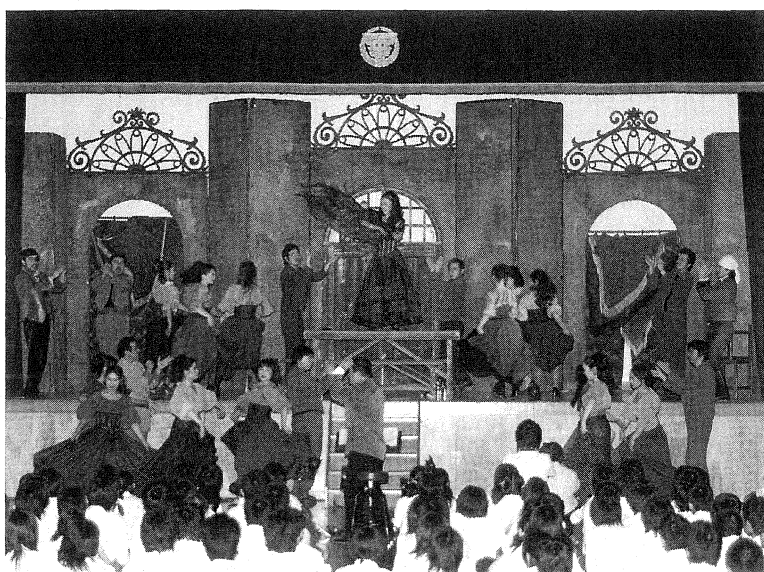
こどもたちが芸術に触れる場を

芸術が人の生活に潤いを
芸与え、また、人としての
 精神活動にとって重要である
 ことは、だれしもが認めると
 ころではないでしょうか。ま
 してや、人格形成期のこども
 たちにとって、芸術に触れる
 ことが、その後の人生にいか
 に大きな影響を与えるかは、
 いまさら申し上げるまでもな
 いことのように思われます。

文化庁では『本物の舞台芸
 術体験事業』を実施しており
 ます。この事業は、小学生か

ら高校生までの児童・生徒に、優れた舞台
 芸術を鑑賞し、芸術文化団体等による実演
 指導、ワークショップやこれらの団体等と
 の共演に参加し、本物の舞台芸術に身近に
 触れる機会を提供することで、芸術を愛す
 る心を育て、豊かな情操を養うものです。
 分野は演劇、音楽、舞踊などにわたりますが、
 <学校公演>500公演、<文化会館公
 演>111公演が今年度中に実施される予定
 です。この事業の大きな特徴の一つに、こ
 どもたちにより積極的に働きかけるために、
 公演に先立ちワークショップを実施してい
 ることが挙げられます。

既に実施された<学校公演>のいくつか
 を実際に見て参りましたが、公演団体
 の熱意と受け入れ校の先生方の協力もあり、
 いずれの公演でもこどもたちが生き生きと
 楽しむ姿が見られ、芸術のもつ力を改めて
 認識しました。オペラ公演が実施された学
 校では、事前に開催されたワークショップ
 を経て、こどもたちがオペラの合唱や踊り
 の一員として公演に参加し、見事に演じき
 っていました。オーケストラ公演では、結
 成されたばかりの金管バンドメンバーのこ
 どもたちが、ワークショップでプロの演奏
 家から直接指導を受けて、本公演では見違



茨木市立天王中学校での『カルメン』公演（こどもたちも衣装を着て参加）

えるような自信に満ちた音でオーケストラ
 と共演していました。

そもそも鑑賞という行為自体、単に受け
 身に聴くという消極的な行為では決してあ
 りません。むしろ、人の精神活動としてき
 わめて能動的な行為です。しかし、鑑賞で
 何を感じ取ったのかを自覚するということ
 は意外に難しいことです。ワークショップ
 に参加した自分たちの仲間が公演において
 見事な役割を演じているのを目の当たりに
 することは、より能動的な鑑賞の契機とな
 り、非常に大きな感動をこどもたちの心に
 与えていたように思われました。

音楽分野だけをとって、こどもを対象
 とした演奏会などの事業は、民間の団
 体やホールでも数多く実施されるようにな
 ってきました。例えば新国立劇場の「こども
 のためのオペラ劇場」や東京交響楽
 団の「こども定期」、東京フィルの「こ
 ども音・楽・館」など、意欲的な企画も
 数多くあります。このような演奏会
 については、社団法人日本オーケス
 トラ連盟発行の『日本のオーケス
 トラのエデュケーション・プログラム』
 などにも記載されていますので、参
 考にしてみてください。

文化庁芸術文化課
 芸術文化調査官

小倉信宏

